視察

平成27年10月20日(火)
三田 敏和

# 町内（大平地区）文化財視察

町内には優れた文化財がありながら、知らないことが多い。国指定４件、県指定６件、町指定21件の文化財があります。

今回、議員全員で、文化財係の案内をいただき、大平地区の13か所を視察しました。古いものでは大正、昭和の前半に国指定されているものもあり、その価値に驚きました。初めに議会会議室で概要説明を受けました。百留の町指定史跡「百留横穴墓群」で出土した約1600点の遺物の中には、耳環や勾玉などがあったと聞きました。勾玉は首飾りとされ、当時の豪族の勢力がうかがわれました。その首飾りを掛けてもらいましたが、1400年の時がタイムスリップし、満足した気分になれたのが、不思議な感覚でした。

その後、昼食をはさみ現地に向かいました。それぞれ、集落から離れた辺ぴな山里が多く、建設のことなどを考えると当時の信仰心の深さを感じました。国指定の穴ヶ葉山古墳、唐原山城跡、友枝瓦窯跡の３か所を含む、貴重な文化遺産を観光へと繋げるためには、時・財源ともに急務といえます。

▲真正寺の石塔群

▲百留横穴墓群

▲上唐原の宝塔

▲冊子「こうげの文化財」
役場・支所などで販売しています（500円）

研修会

平成27年11月25日（水）
於：福岡県自治会館
高畑 廣視

# 福岡県町村議会議長会主催　広報研修会

福岡県の町村議会議員など約250名が参加し、広報研修会が開催され、上毛町議会からは広報特別委員会委員全員が参加しました。広報アナリストの吉村潔氏により「読者とつながる対話型広報へ　～議会広報のコミュニケーション技術～」というテーマで講演がありました。

応募した議会広報（議会だより）を講評してもらう「広報紙クリニック」で、上毛町の議会だよりは、「良い議会広報」と高い評価を得ました。

### ●広報作成にあたり工夫すべき点

- アウトラインがすぐわかり、写真と見出しで内容が想像できる紙面にする。
- 書体を多用、加工しない。
- 本文の文字には色をつけず、グラフや写真が目立つことを優先する。
- 写真にメリハリをつける。
  写真の大きさに差をつけ、切り抜いたり、顔写真を掲載したりする。
- 表紙に使う良い写真はシンプルにする。

### ●読書率アンケート

平成27年に関東のある市で行われた新聞と広報紙の読書率アンケート（3,000人を無作為抽出、回答者1131人）から、広報紙が多くの人に読まれていることが分かりました。

| 読書率　年　代 | 新　聞 | 広　報 |
|---|---|---|
| ～40代 | 50% | 79% |
| 50代～ | 88% | 85% |
| 60代～ | 89% | 82% |
| 70代～ | 90% | 95% |



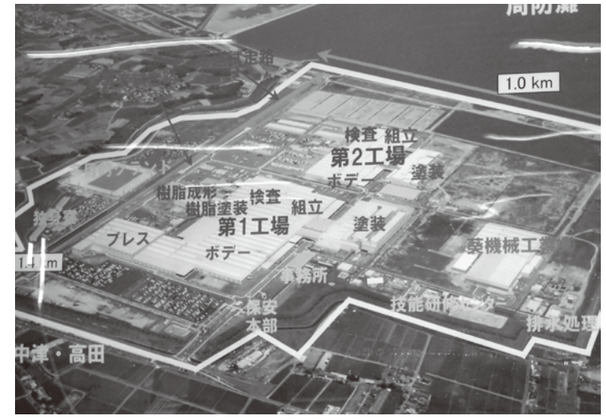
視察

平成27年11月20日(金)
岩花 寛之

# ダイハツ九州（株）中津工場視察

吉富町議会議員と共に、中津市のダイハツ九州（株）を視察研修しました。

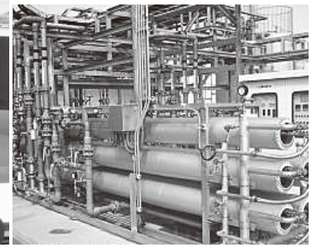
会社概要の説明を受け、工場内の組立工程を見学、続いて隣接する中津港の整備状況を丁寧な解説を受けながら視察しました。年間40万台以上、約１分に１台という高い生産性と、同一ラインで40車種以上を組立てることができる凡用性に驚かされるとともに、それを可能にした社員の努力と情熱に大変感動しました。




ダイハツ九州は、平成16年12月に群馬県前橋市から中津市に本社を移転し、今では年商3000億円を超える自動車メーカーとなりました。社員数は約3300人（正規社員約2800人）、平均年齢32歳です。

中津市に与える影響は多大なものであり、法人税収は平成25年度５億600万円、中津市の法人税収の約半分を占めており、年間100人が結婚し、150人の子どもが生まれていると聞きます。私も中津市で長く建築業に携わっていますが、完成見学会の来場者のほとんどがダイハツ社員だったこともありました。また、本町及び吉富町からも約100人が従業員として勤務しており、経済圏を同一にする近隣自治体にとってもダイハツ九州進出による波及効果は計り知れないものです。

しかしながら、この10年余り、本町としてはその恩恵に与るだけで、これを好機と捉え、どれほどの行動ができたのでしょうか。関連企業の誘致、地場企業の部品提供、就職斡旋、社員向けの様々なアプローチなど、考えればいくらでもチャンスがあったのではないでしょうか。他県のこと、他自治体のことと羨ましがるだけで、文字通り対岸のことのように傍観していたのではないかと感じます。

また、個人的には工場内に設置された3000㎥の処理能力を持つ排水リサイクル設備に大変関心を持ちました。国内車両組立工場初の排水リサイクル設備を導入し、排水の最大40％を再利用、水資源を節約しているだけでなく、環境基準の半減レベルに浄化し川に放流しているとのことでした。工業排水だけではなく、従業員の生活排水を処理していると聞き、現在本町でも課題となっている汚水処理施設の建設において参考になると感じました。

今回の視察を通じ、こうした先進企業に学ぶべきことは本当に多く、「広域連携」の必要性と同時に難しさも感じました。今後の課題として勉強していきたいと思います。